

らの集団の核型は、これまでに出版されている核型と類似していた。3倍体の24の染色体が2倍体のみが以前に報告されていた場所で観察され、内部倍数性が示唆される。

Laboratory Host Range Studies with a Leaf-Mining Duckweed Shore Fly (M. Mansor & G. R. Buckingham)

フロリダのアオウキクサの仲間 (*Lemna* spp.) から採集された双翅目の食葉性ハエ (*Lemnaphila scotlandae* Gresson) について、19種の水草と1種の藻類を用いた二者選択産卵実験(2種の植物をひとつの容器に入れてどちらを選ぶかを見る)を行った。卵はウキクサ科の6種に産みつけられたに過ぎなかった。これらの種のうち3種のみで幼虫が成虫にまで成長し、3種すべてがウキクサの仲間であった。非選択産卵実験(ひとつの容器に1種植物)では、イボウキクサやチリウキクサに比べてコウキクサに、より多くの卵が産みつけられた。この食葉性のハエは、アオウキクサ属の生物制御の潜在的な候補者と考えられる。

Eurasian Watermilfoil Seed Ecology From an Oligotrophic and Eutrophic Lake (J. D. Madsen & C. W. Boylen)

ホザキノフサモの分布拡大における種子の役割を調べたが、野外でどの程度重要な役割を果たしているかは、まだはっきりと断定できなかった。分布拡大における種子の相対的な重要性を決める一番の要素のひとつは、底質の栄養塩の状態およびすべての生産力を支配する水のアルカリ度(水中の無機炭素量)という点での、その場所の肥沃度であろう。この他の要素、たとえば花穂の密度や雄花の密度なども種子の生産に重要だろう。花への分配は、水深、現存量、生産量、利用可能な底質中の栄養塩量、攪乱、被食によっても影響を受けるだろう。

(國井秀伸 訳)

○文献リスト、<1992—(3)>

- 稲村達也. 水稻への雑草害から見たクログワイの生育許容限界. 雑草研究 37: 290—295.
 岩村政浩. 佐賀県のタヌキモ類(2)ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour. 佐賀の植物 (28): 16—23.

- 清沢桂太郎. 車軸藻節間細胞に対するpH緩衝液の毒性. 藻類 40: 215—227.
 大隈光善. 畦畔・水路雑草キシュウズメノヒエ、チクゴズメノヒエの生態と防除. 農業技術 47: 71—75.
 倉成靖任・三浦孝一. 佐賀県におけるイセウキヤガラ分布と生態. 佐賀の植物 (28): 59—62.
 須藤俊造. 海藻・海草相とその環境条件との関係をより詰めて求める試み. 藻類 40: 289—305.
 野原精一. コカナダモの駆除試験研究Ⅱ. 「尾瀬の保護と復元」(20): 57—65.
 浜田善利・小林嘉光・椎葉昭二・信國弘. 熊本の水生シダ植物の現況. 熊本県記念植物採集会誌 Botany (42): 23—34.
 松田行雄. 湿原植生の群落学的研究 VI. 天狗原の12年間の動態. 長野県植物研究会誌 (25): 22—26.
 Masuyama, S. Clinal variation of frond morphology and its adaptive implication in the fern *Ceratopteris thalictroides* in Japan. Plant Species Biol. 7: 87—96.

<1993—(1)>

- 小野 一. 明石市およびその周辺に自生するオニバスの現状. 兵庫の植物 (3): 35—38.
 角野康郎. 釧路湿原の水生植物—危惧される水辺環境の変化. 水 35(3)(No. 488): 32—35.
 ———. イトクズモの発見と絶滅危惧種の問題. しぜんしくらしき(倉敷市立自然史博物館友の会)(4): 2—4.
 小宮定志. 日本産食虫植物発見史(2). 食虫植物研究会誌 44: 13—19.
 柴田千晶. 北海道東部地域の食虫植物. 食虫植物研究会誌 44: 6—11.
 山本一潔. 相生市鉄砲山海岸の植生とシバナ群落. 兵庫の植物 (3): 143—162.
 Haraguchi, A. Phenotypic and phenological plasticity of an aquatic macrophyte *Menyanthes trifoliata* L. J. Plant Res. 106: 31—35.
 Nohara, S. Annual changes of stands of *Trapa natans* L. in Takahamairi Bay of Lake Kasumigaura, Japan. Jpn. J. Limnol. 54: 59—68.